

PRIMEQUEST 3000シリーズ ファームウェアアップデート手順書

10版
2022年9月
富士通株式会社

1. はじめに
2. 事前準備
3. ファームウェアアップデート手順
4. 事後作業



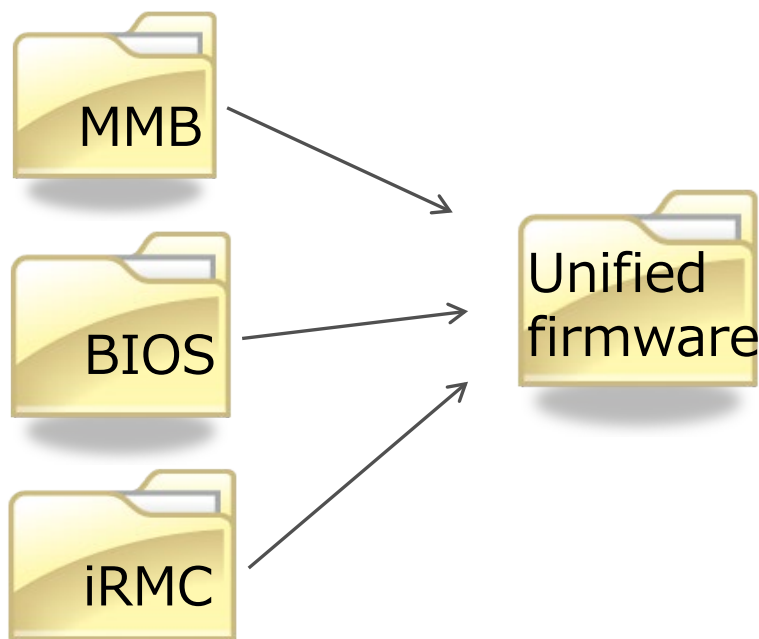
1. はじめに (1/6)

1-1. 統合ファームウェアファイル

PRIMEQUEST 3000シリーズのファームウェアを更新する場合には、統合ファームウェアファイルを使用します。

統合ファームウェアファイルは以下の3つのファームウェアの同梱により構成されています。

- MMBファームウェア
- iRMCファームウェア
- BIOS



ファイル名:

PRIMEQUEST_PAxxxxxx.tar.gz

(PRIMEQUEST 3400S Lite/3400S/
3400E/3400L/3800E/3800Lの場合)

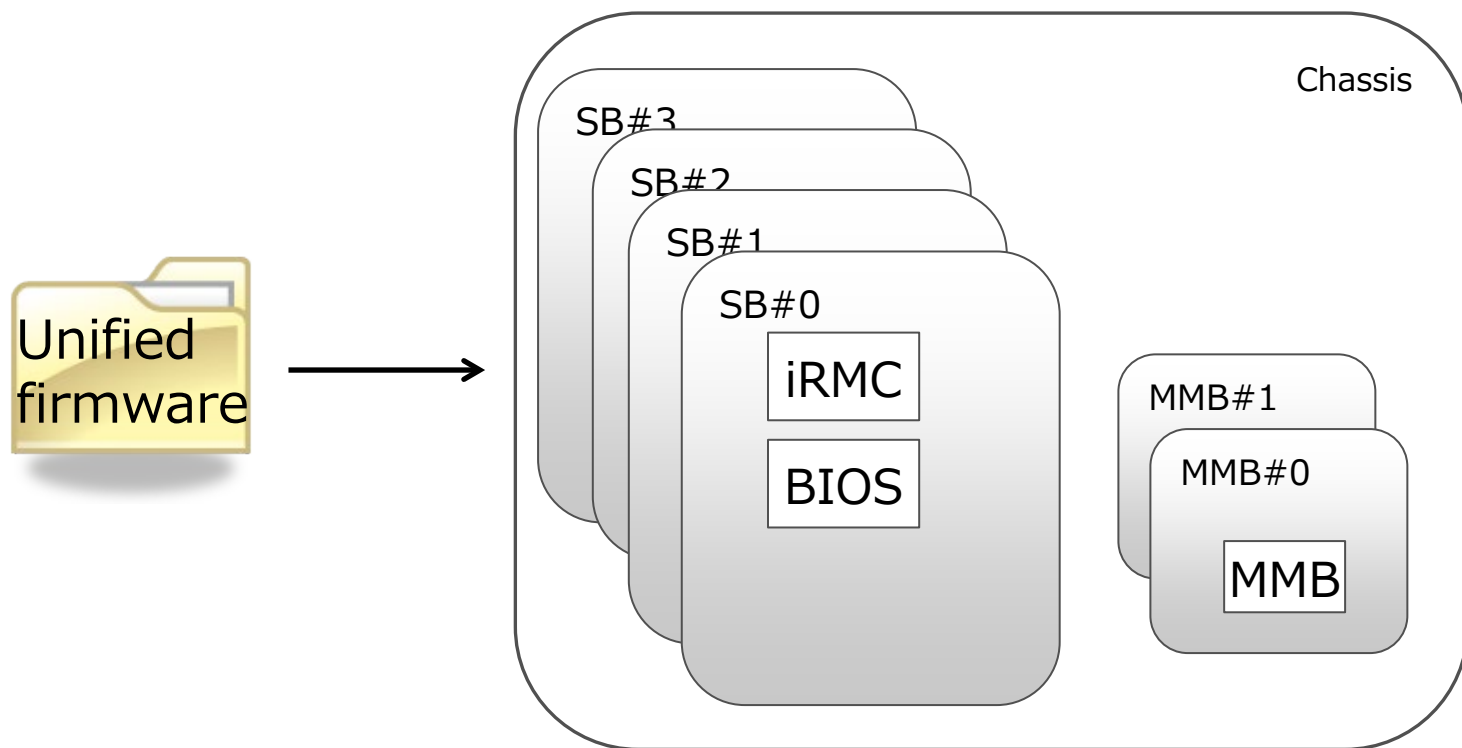
PRIMEQUEST_PBxxxxxx.tar.gz

(PRIMEQUEST 3400S2 Lite/3400S2/
3400E2/3400L2/3800E2/3800L2の場合)

xxxxxx: 統合ファームウェア版数

1-2. ファームウェア更新

統合ファームウェアのアップデートが実行されると、筐体に搭載されている全てのMMBファームウェア、iRMCファームウェアおよびBIOSが更新されます。



1-3. パーティション状態

統合ファームウェアの更新が開始されるとき、筐体内に搭載されている各々のパーティションは以下の3つの状態の中のどれかの状態に該当しなければなりません。

- Power Off
- Boot
- OS Running

[注意事項]

ファームウェア更新が実行されている間は、該当パーティションの電源Offまたは電源Onを実施してはいけません。

1. はじめに (4/6)

1-4. 新ファームウェア版数に切り替わるタイミング

新ファームウェア版数に切り替わるタイミングは以下に示す通りです。

ファーム更新開始時のシステム構成およびパーティション状態によって、新ファームウェア版数に切り替わるタイミングが異なります。

- ・ファームウェア更新開始時のパーティション状態が、全パーティション：Power Offの場合

MMB 構成	ファームウェア種別	
	MMB	iRMC、BIOS
1重化	ファーム更新実施中 (iRMC、BIOSが更新される前)	ファーム更新完了時
2重化	〃	〃

- ・ファームウェア更新開始時のパーティション状態が、1つ以上のパーティション：BootまたはOS Runningの場合

MMB 構成	ファームウェア種別	
	MMB	iRMC、BIOS
1重化	ファーム更新完了後、 全てのパーティションが“Power Off”状態に 遷移したとき	ファーム更新完了後、 全てのパーティションが“Power Off”状態に遷移したとき
2重化	ファーム更新実施中 (iRMC、BIOSが更新される前)	・開始時の状態が Power Offのパーティション： ファーム更新完了時 ・開始時の状態がBootまたはOS Runningのパーティション： ファーム更新完了後、 該当パーティションが“Power Off”状態に遷移したとき

1-5. ファームウェア更新時間

以下に2つの構成例におけるファームウェア更新時間を示します。

いずれも目安時間であり、記載された時間でファームウェア更新が完了することを示すものではありません。

[MMB 2重化、SB x4台の場合]

BIOS : 12

iRMC : 21

MMB : 67

合計 : 100

[MMB 1重化、SB x2台の場合]

BIOS : 6

iRMC : 12

MMB : 30

合計 : 48

※上記に示した時間単位 : 分

1-6.ファームウェアをダウングレードする場合の注意事項

PRIMEQUEST 3400S Lite/3400S/3400E/3400L/3800E/3800LでPA19121以降からPA19091以前のファームウェアにダウングレードする場合、ダウングレードする版数のファームウェアのアップデート(*1)をさらに1回実施し、計2回のアップデート(*1)が完了後、装置をAC OFF/ONする必要があります。詳細手順は **5. ダウングレード手順** を参照してください。

*1)オンラインファームウェアアップデートは使用できません。

[上記作業が必要な理由]

PA19121のファームウェアにおいて、BIOSファームウェアにIntel®MEファームウェア(*2)に関する脆弱性の修正が取り込まれており、BIOSファームウェアがダウングレードする場合、AC OFF/ONの作業が必要になります。

また、PRIMEQUESTは、BIOSを格納するROMが2つあります。2つのROMにあるBIOSファームウェアを同時にダウングレードするため、2回のアップデートを実施する必要があります。

*2) Intel®MEファームウェアはBIOSファームウェア内にあります。

2. 事前準備 (1/11)

- Web-UI を操作してファームウェアアップデートの一連の作業を実行するため、作業期間中、管理LAN に接続した作業用パソコンを一台割りつけてください。
- ファームウェアアップデートで使うファームウェアファイルをダウンロードして、作業用パソコンに置いてください。ファームウェアファイルは以下のURL からダウンロードできます。
<https://www.fujitsu.com/jp/products/computing/servers/primequest/download/3000-bios/>
- MMB Web-UI のPower Restoration Policy が「Always ON」でないことを確認してください。「Always ON」になっている場合は「Always OFF」に変更してください。
- スケジュール運転機構を使用している場合、ファームウェアアップデートを行なう時間帯と、対象装置のスケジュール運転機構による電源操作スケジュールが重なっていないことを確認してください。スケジュールが重なっている場合、スケジュール運転を事前にオフにしてください。
- UEFIメニューのIntel TXT Supportが「Enabled」でないことを確認してください。「Enabled」になっている場合は「Disabled」に変更してください。

2. 事前準備 (2/11)

- 特定のパーティション構成でのReserved SB設定について
PRIMEQUEST 3400S Lite/3400S/3400E/3400L/3800E/3800Lで
PA19071以前のファームウェアからアップデートする、かつ、MMB二重化構成、
かつ、オンラインファームアップを実施するケースにおいて、下記のパーティション構成
条件に当てはまる場合は、Reserved SB設定の解除をお願い致します。

[パーティション構成条件]

同一のSBをReserved SBとして、また他パーティションの構成SBとして
兼用している場合

(Free SBをReserved SBとして設定している場合は対象外)

例) パーティション構成例

下記は、P#0のSB#3がReserved SBとして設定されており、また、SB#3
がP#1の構成SBとして定義されているケースを示しています。

パーティション	SB			
	#0	#1	#2	#3
P#0	○	○	○	✓
P#1				○
P#2				
P#3				
Reserved				●
Free				

● : Reserved SBとして設定されているSB

○ : パーティションに定義されているSB

✓ : パーティションに設定されているReserved SB

2. 事前準備 (3/11)

■ Reserved SB設定解除手順

下記の手順で解除を行ってください。

Reserved SBの解除はOS運用中でも設定可能です。

- 1) [Reserved SB Configuration] 画面を出します
- 2) 解除後の再設定に備え、現在のReserved SBの設定状態を記録します。
- 3) Reserved SB の対象とするパーティションのチェックボックスをオフにします。
- 4) [Apply] ボタンをクリックします

参照マニュアル：

<https://www.fujitsu.com/jp/products/computing/servers/primequest/products/3000/catalog/>

ハードウェアマニュアル 運用管理ツールリファレンス(MMB) (CA92344-1657)

2.4.7 [Reserved SB Configuration]画面

2. 事前準備 (4/11)

- SBの正常確認について
装置に搭載されている各SBが正常であることを確認してください。
MMB Web-UI のSystem >System Status 及びSB で
StatusがOKであることを確認します。
- MMBの物理IP無効について
PRIMEQUEST 3400S Lite/3400S/3400E/3400L/3800E/3800Lで
PA18091以前のファームウェアからアップデートする、かつ、MMB二重化構成、
かつ、MMBの物理IPアドレスが設定されており、また、有効(Enable)になっている
場合は、MMBの物理IPを無効(Disable) に変更してください。

2. 事前準備 (5/11)

■ MMBの物理IP無効手順

下記の手順で無効(Disable)に設定してください。

- 1) [IPv4 Interface] 画面を出します
- 2) 無効後の再有効化に備え、現在の設定状態を記録します。
- 3) [MMB#0 IP Address]の[Interface]をDisableにチェックします。
- 4) [MMB#1 IP Address]の[Interface]をDisableにチェックします。
- 5) [Apply] ボタンをクリックします
- 6) [IPv6 Interface]画面を出します
- 7) 無効後の再有効化に備え、現在の設定状態を記録します。
- 8) [MMB#0 IP Address]の[Interface]をDisableにチェックします。
- 9) [MMB#1 IP Address]の[Interface]をDisableにチェックします。
- 10) [Apply] ボタンをクリックします

参照マニュアル：

<https://www.fujitsu.com/jp/products/computing/servers/primequest/products/3000/catalog/>

ハードウェアマニュアル 運用管理ツールリファレンス(MMB) (CA92344-1657)

2.6.2.1 [IPv4 Interface] 画面

2.6.2.2 [IPv6 Interface] 画面

2. 事前準備 (6/11)

- System Event Logの採取(Collect)について
PRIMEQUEST 3400S Lite / 3400S / 3400E / 3800E / 3400L / 3800L で本体ファームウェア版数PA19121 ~ PA20021を使用している場合、または、PRIMEQUEST 3400S2 Lite / 3400S2 / 3400E2 / 3800E2 / 3400L2 / 3800L2 で本体ファームウェア版数PB19123 ~ PB20021を使用している場合、System Event Logの採取(Collect)を行ってください。

2. 事前準備 (7/11)

■ System Event Logの採取(Collect)手順

下記の手順でSystem Event Logの採取(Collect)をしてください。

- 1) [System Event Log] 画面を出します。
- 2) [Collect] ボタンをクリックすると[I_00417 Are you sure?] メッセージが表示されます。
[OK] ボタンをクリックします。
- 3) システムイベントログ情報の採取が自動的に開始し、[Progress] 画面が表示されます。
[Progress] 画面ではなく、以前に採取したイベントデータに対するリンクが日付情報つきで表示された場合、[Re-Collect] ボタンをクリックします。[I_00417 Are you sure?] メッセージが表示されるので、[OK] ボタンをクリックします。システムイベントログ情報の採取が自動的に開始し、[Progress] 画面が表示されます。
- 4) [System Event Log (Collect)] 画面が表示され、採取したイベントデータに対するリンクが日付情報つきで表示されます。
- 5) リンクをクリックすると、ダイアログボックスが表示されます。ファイル名、パスを指定し、Web-UIを表示しているPCにイベントデータをダウンロードします。

参照マニュアル：

<https://www.fujitsu.com/jp/products/computing/servers/primequest/products/3000/catalog/>

ハードウェアマニュアル 運用管理ツールリファレンス(MMB) (CA92344-1657)

2.3.2 [System Event Log] 画面

2. 事前準備 (8/11)

■ PRIMECLUSTER使用時の注意事項について

PRIMECLUSTERを使用している場合、かつ、PRIMEQUEST 3400S Lite / 3400S / 3400E / 3800E / 3400L / 3800L でPA20061以前の本体ファームウェア版数を使用している場合、または、PRIMEQUEST 3400S2 Lite / 3400S2 / 3400E2 / 3800E2 / 3400L2 / 3800L2 でPB20061以前の本体ファームウェア版数を使用している場合は、ファームウェアアップデートの実施の前に、下記のいずれかの作業を実施してください。

【オンラインアップデート実施の場合】

- ・MMB Reset (作業手順は、「6.MMBのReset方法」を参照)

【オフラインアップデート実施の場合】

- ・稼働パーティションのシャットダウンを実施後、AC電源のオフ・オン (AC電源のオフ・オンは、事前準備を実施した後、ファームウェアアップデート作業を実施する前に、実施してください。作業手順は、「5.ダウングレード手順(2/2)」を参照ください。)

2. 事前準備 (9/11)

■ Base Unitの電源を後から投入した状態でないことの確認について

PRIMEQUEST 3400S Lite / 3400S / 3400E / 3800E / 3400L / 3800L で PA19024以降の本体ファームウェア版数を使用している場合、または、PRIMEQUEST 3400S2 Lite / 3400S2 / 3400E2 / 3800E2 / 3400L2 / 3800L2 (初版以降のすべての本体ファームウェア版数)を使用している場合は、ファームウェアアップデートの実施の前に、Base Unitの電源を後から投入した状態でないことの確認を実施してください。

【Base Unitの電源を後から投入した状態でない場合】

通常のファームウェアアップデートが可能です

【Base Unitの電源を後から投入した状態の場合】

ファームウェアアップデートの実施の前に、AC電源のオフ・オン(*1)の作業が必要になります。

【注意】

Base Unitの電源を後から投入した状態でないことを確認できない場合は、安全のため、ファームウェアアップデートの実施の前に、AC電源のオフ・オン(*1)の作業を実施ください。

*1) AC電源のオフ・オンは、事前準備を実施した後、ファームウェアアップデート作業を実施する前に、実施してください。AC電源のオフ・オンの作業手順については、「5.ダウングレード手順(2/2)」を参照ください。

2. 事前準備 (10/11)

■ Base Unitの電源を後から投入した状態でないことの確認手順(1/2)

- 1) MMB Web-UIにログインする。
- 2) [System Event Log] 画面を表示させます。
- 3) [Filter] ボタンをクリックし、[System Event Log Filtering Condition] 画面を表示させます。
- 4) SeverityをInfoのみにし、UnitをSpecifiedにしてMMB#0とMMB#1にチェックを入れ、Number of events to displayを3000として、[Apply] ボタンをクリックし、フィルタを設定します。
- 5) [System Event Log] 画面が表示され、MMB#0,MMB#1のInfoのイベントのみが表示されます。以下の3つのイベントのセットがAC-Onイベントであり、あった場合は、最新イベントの発生日時をメモします。

Severity	Unit	Source	Event ID	Description
Info	MMB#0	MMB#0	2C6F04FF	FRU Active
Info	MMB#0	MMB#0	150700FF	Transition to OK
Info	MMB#1	MMB#1	2C6F04FF	FRU Active

- ※1) 上記のイベントはMMB#0がActive時にAC-Onしたときのイベントです。
MMB#1がActiveの場合は、ユニット番号を0⇔1に読み替えてください。
- ※2) 3つのイベントの間に別のイベントが記録される場合があります。
3つのイベントは、連続で記録されない場合があることに注意してください。

AC-Onイベントがない場合は、イベントが上書きされているか、SEL クリアにより、AC-Off/Onした形跡が残っていませんので判断ができません。

安全のため、ファームアップを行う前にAC電源のオフ・オンが必要になります。

(次ページに続きます)

2. 事前準備 (11/11)

■ Base Unitの電源を後から投入した状態でないことの確認手順(2/2)

- 6) [Filter] ボタンをクリックし、[System Event Log Filtering Condition] 画面を表示させます。
- 7) SeverityをInfoのみにし、UnitをAllにして、Number of events to display を3000として、[Apply] ボタンをクリックし、フィルタを設定します。
- 8) [System Event Log] 画面が表示され、Infoのイベントのみが表示されます。
以下のイベントがあった場合は、最新イベントの発生日時をメモします。

Severity	Unit	Source	Event ID	Description
Info	System	Base_Unit	C8A14002	Power Supply input is restored

イベントがない場合は、Base_Unitの電源を後から投入した状態ではありませんので、ファームアップ作業が可能です。ここで確認作業が終了になります。

フィルタ設定を元に戻すため、[Filter] ボタンをクリックし、[System Event Log Filtering Condition] 画面を表示して、フィルタ設定を元に戻してから[Apply]ボタンをクリックします。
この確認後、MMB Web-UIからLogoutする場合は、フィルタ設定を元に戻す必要はありません。

- 9) メモした2つのイベント発生日時を比較します。

5)で採取したイベント発生日時の方が新しいイベントであれば、Base_Unitの電源を後から投入した状態ではありませんので、ファームアップ作業が可能です。

(手順終わり)

参照マニュアル：

<https://www.fujitsu.com/jp/products/computing/servers/primequest/products/3000/catalog/>

ハードウェアマニュアル 運用管理ツールリファレンス(MMB) (CA92344-1657)

2.3.2 [System Event Log] 画面

3. ファームウェアアップデート手順 (1/10)

■ ご案内

本手順の説明に使用しているWeb-UIの画面は、PRIMEQUEST 3800Eモデルを使用しているため、PRIMEQUEST 3800EのModel名やファームウェア版数で記述されています。

他のモデルでも手順は同じであるため、ご使用のモデルのModel名やファームウェア版数に読み替えてご使用ください。

3. ファームウェアアップデート手順 (2/10)

3-1. ナビゲーションバーを以下の順にクリックしてください。

Maintenance → Firmware Update → Unified Firmware Update

System Partition User Administration Network Configuration Maintenance Logout

>Maintenance >Firmware Update >Unified Firmware Update

Firmware Update
Unified Firmware Update
Backup/Restore Configuration
Maintenance Wizard
REMCS

Unified Firmware Update

Help

Select a unified firmware file.

Browse...

Update Cancel

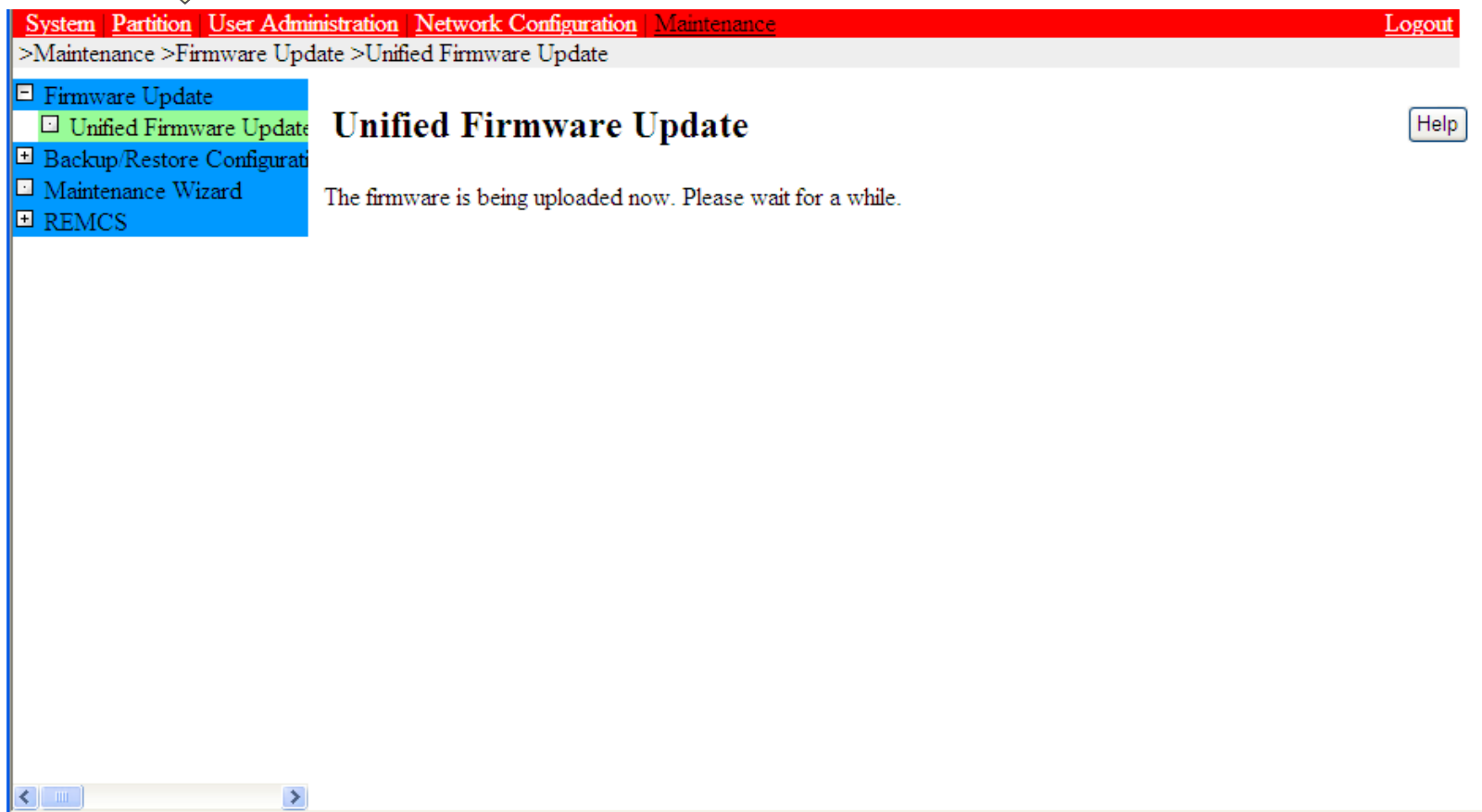
3-2. 統合ファームウェアファイルを選択してください。

- ・ ファームが格納されているフルパスを入力
または
- ・ [Browse]ボタンをクリックし、ファイルを選択

3-3. [Update]ボタンをクリック
してください。

3. ファームウェアアップデート手順 (3/10)

3-4. しばらく待ってください



3. ファームウェアアップデート手順 (4/10)

The screenshot shows a web interface for 'Unified Firmware Update'. The top navigation bar includes 'System', 'Partition', 'User Administration', 'Network Configuration', and 'Maintenance'. The breadcrumb trail is '>Maintenance >Firmware Update >Unified Firmware Update'. A left sidebar contains a tree view with 'Firmware Update' expanded, showing 'Unified Firmware Update', 'Backup/Restore Configuration', 'Maintenance Wizard', and 'REMCS'. The main content area is titled 'Unified Firmware Update' and has a 'Help' button. It contains two labels: 'Current Unified Firmware Version : ' followed by an empty text box, and 'New Unified Firmware Version : ' followed by another empty text box. At the bottom right, there are 'OK' and 'Cancel' buttons.

3-5. 以下を確認してください

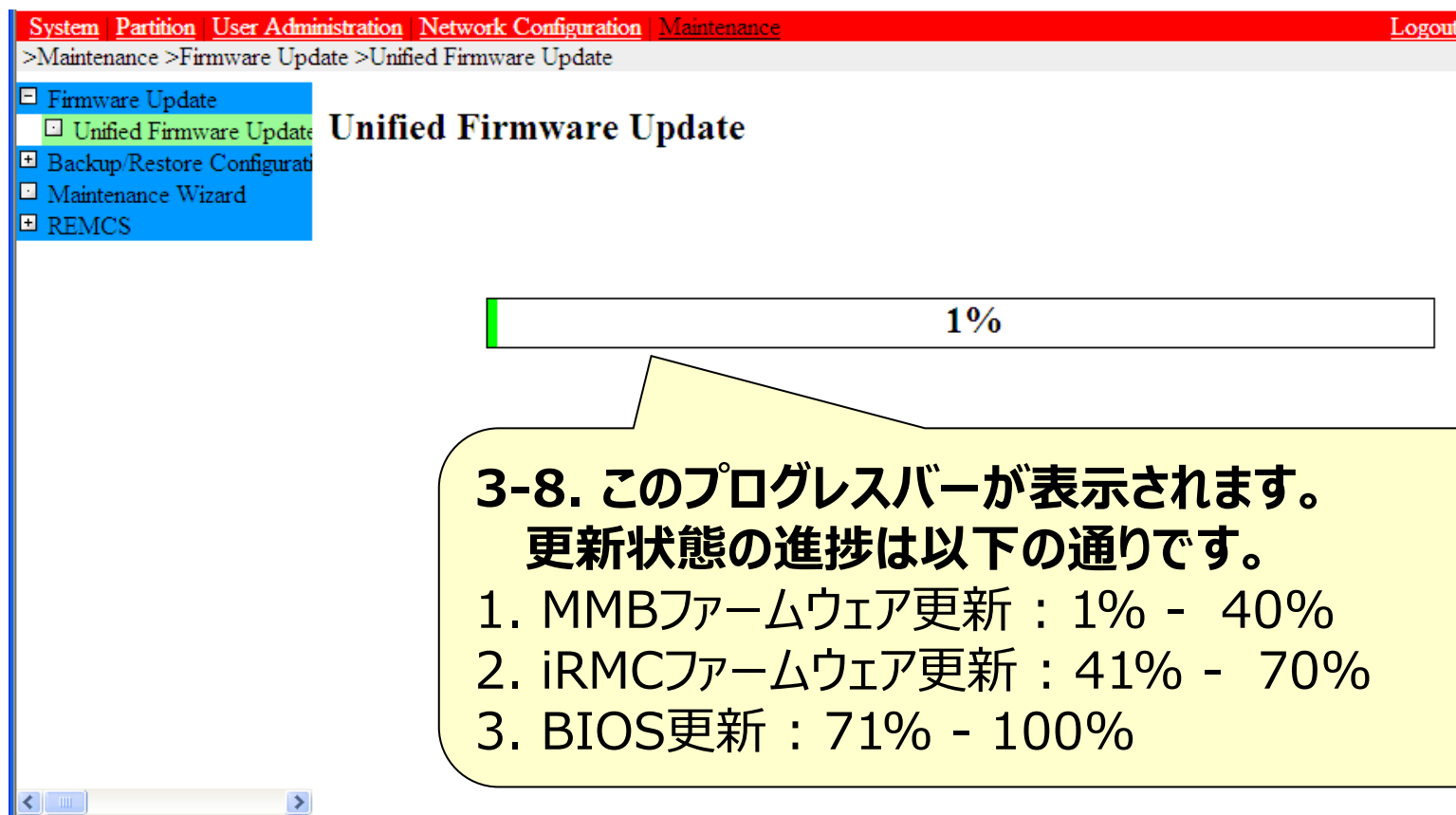
- 現在の稼動ファームウェア版数
- 新ファームウェア版数

3-6. [OK]ボタンをクリックしてください



3-7. [OK]ボタンをクリックしてください

3. ファームウェアアップデート手順 (5/10)

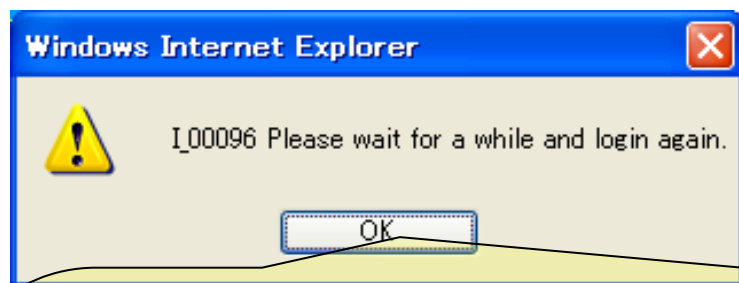


The screenshot shows a web-based management interface. At the top, there is a red navigation bar with tabs: System, Partition, User Administration, Network Configuration, and Maintenance. The Maintenance tab is selected. Below the navigation bar, the breadcrumb path is: >Maintenance >Firmware Update >Unified Firmware Update. On the left, a blue sidebar contains a tree view with the following items: Firmware Update (expanded), Unified Firmware Update (selected), Backup/Restore Configuration, Maintenance Wizard, and REMCS. The main content area is titled 'Unified Firmware Update' and displays a progress bar that is 1% full. A yellow callout box points to the progress bar with the following text:

**3-8. このプログレスバーが表示されます。
更新状態の進捗は以下の通りです。**

1. MMBファームウェア更新 : 1% - 40%
2. iRMCファームウェア更新 : 41% - 70%
3. BIOS更新 : 71% - 100%

3. ファームウェアアップデート手順 (6/10)



3-9.

[MMB 2重化構成の場合]

プログレスバーが表示され、アップデート開始から約40分後(プログレスバー : 20%)に強制的にWeb-UIからログオフされます。

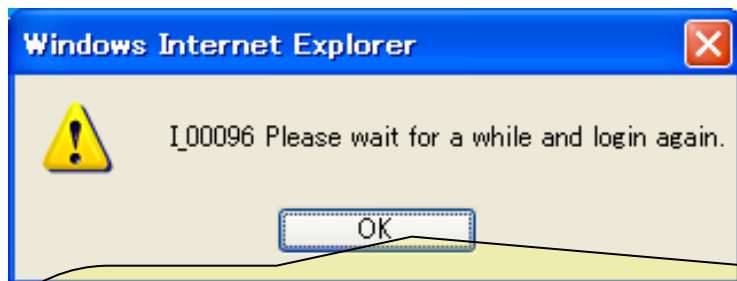
このとき、該当ダイアログが表示されますので、[OK]ボタンをクリックしてください。ログインは強制ログオフ直後から可能ですが、MMBのスイッチオーバーが行われるため、またすぐにWeb-UIに接続できなくなります。

強制ログオフから約7分後に継続的にログイン可能となりますが、アップデート開始から約60分後(プログレスバー : 40%)に再び強制的にWeb-UIからログオフされます。

この時も、強制ログオフから約7分後に継続的にログイン可能となります。

MMB両系のファームウェアをアップデートするため、本手順は一連のファームウェアアップデート手順の中で2回発生します。

3. ファームウェアアップデート手順 (7/10)



3-9.

[MMB 1重化構成の場合]

全パーティションが“Power Off”状態でファームアップを開始したとき、プログレスバーが表示され、アップデート開始から約15分後(プログレスバー：40%)に強制的にWeb-UIからログオフされます。

このとき、該当ダイアログが表示されますので、[OK]ボタンをクリックしてください。

ログインは強制ログオフ直後から可能ですが、MMBのリブートが行われるため、またWeb-UIに接続できなくなります。

継続的にログイン可能となるのはアップデート開始から約30分後となります。

1つ以上のパーティションが“Boot”または“OS Running”状態でファームアップを開始したとき、本手順および3-10, 3-11は発生しません。

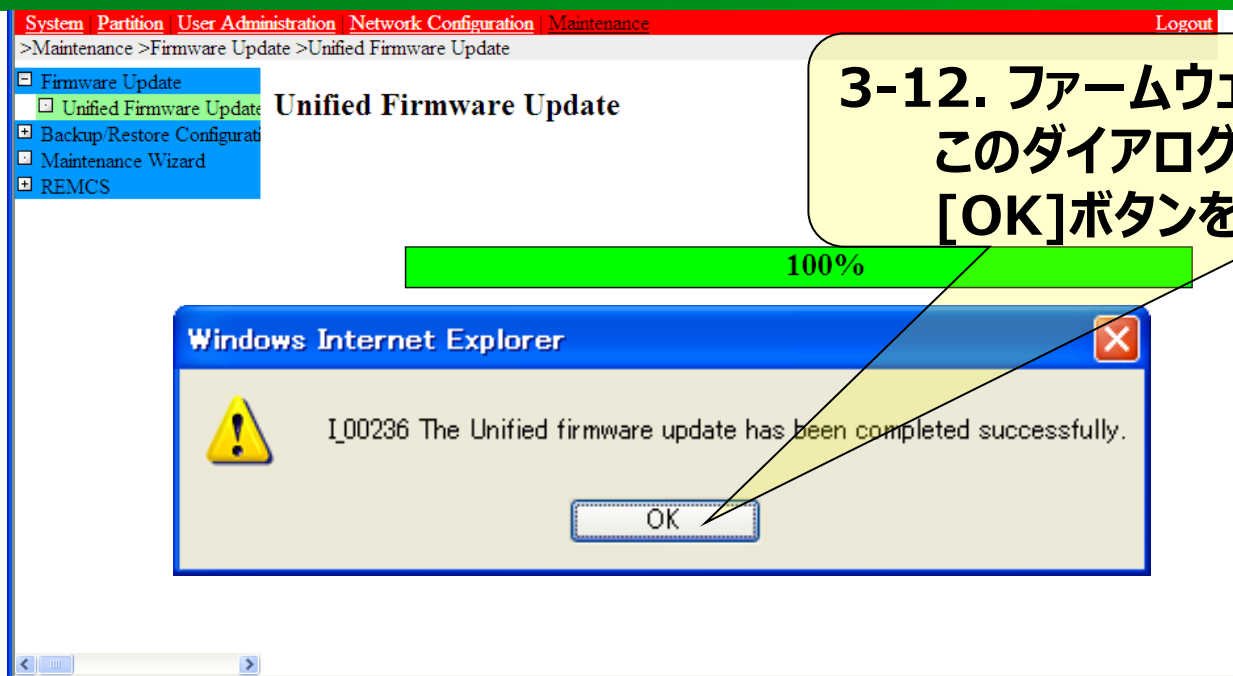
3. ファームウェアアップデート手順 (8/10)



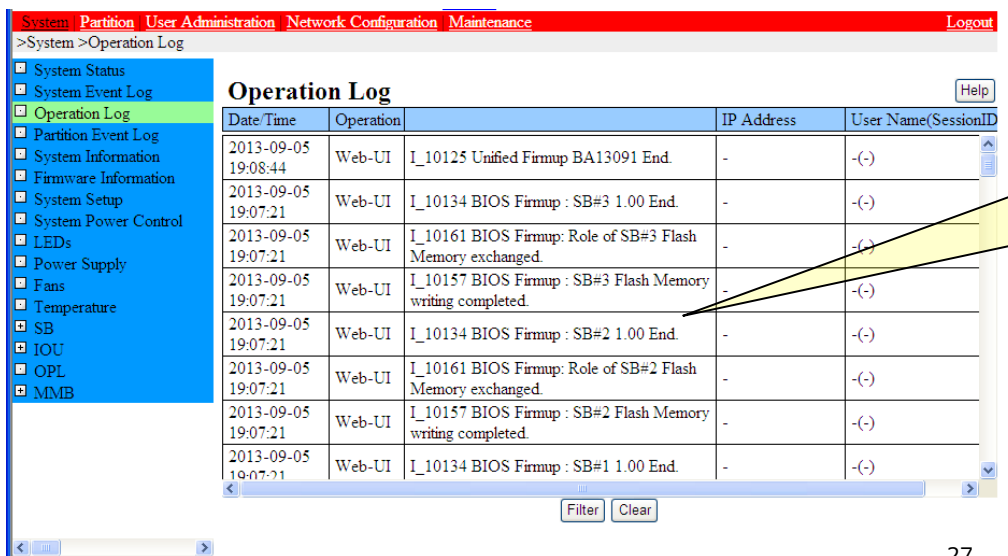
3-10. このダイアログが表示されれば、ログイン可能です。[OK]ボタンをクリックしてください。MMBが2重化構成の場合、本手順は2回発生します。

3-11. ログイン後、ナビゲーションバーから[Unified Firmware Update]メニューをクリックしてください。MMBが2重化構成の場合、本手順は2回発生します。

3. ファームウェアアップデート手順 (9/10)



3-12. ファームウェアアップデートが完了すると、このダイアログが表示されます。
[OK]ボタンをクリックしてください。



3-13. “Operation Log”
ウィンドウからファームウェア更新が実施されたことを確認します。

3. ファームウェアアップデート手順 (10/10)

Firmware Information				
Unified Firmware Version PA17105				
Current Firmware				
Unit	Firmware	active bank Version(bank1) Version(bank2)	Unified Firmware Version	
SB#0	Not-present			
SB#1	iRMC	bank1 1.18Q	PA17105	
		1.18Q		
	BIOS	bank2 1.29	PA17105	
		1.29		
SB#2	Not-present			

3-14. “Firmware Information”
ウィンドウから更新後のMMB, iRMC,
BIOSのファームウェア版数,
ファーム総合版数を確認します。

3-15. オンラインアップデートを実施した後に一番上のUnified Firmware Versionが旧版数(新版数)で表示される場合、アップデート作業中に起動中だった全パーティションのパワーオフ/オンを実施してください。

【注意】

- ・MMB 1重化構成、かつ、MMBのファーム総合版数(一番右のUnified Firmware Version欄)が旧版数で表示される場合は、全パーティションを同時にパワーオフしてください。
- ・パワーオフ/オン操作時、以下を確認します。
パーティションのパワーオフ後、パーティションに属する全SBのiRMCとBIOSのファーム総合版数(一番右のUnified Firmware Version欄)が更新後のファーム総合版数に切り替わっていることを確認してから、パワーオンを実施します(*)。

*)上記の切り替わり前にパワーオンした場合、System Progress(MMB Web-UI > Partition > Power Control)がResetより先に進まなくなり、OSが起動しません。この状態を復旧させるためには以下の操作を実施します。

- ① 該当のパーティションをForce Power Off(MMB Web-UI > Partition > Power Control)でパワーオフします。
- ② Force Power Offによるパワーオフが完了してから、再度、パワーオンを実施します。

- スケジュール運転や「Always ON」を解除していた場合は、再度有効にしてください。
Intel TXT Supportを事前作業で「Disabled」に変更していた場合、「Enabled」に設定してください。MMBの物理IPを無効に変更していた場合、再度有効にしてください。
- 特定のパーティション構成でのReserved SB再設定について
事前作業において、Reserved SBの設定を解除した場合は、全パーティションをパワーオフした後に再設定してください。
再設定のタイミングは、パーティションのパワーオン前、後どちらでも構いません。
- Reserved SBの再設定手順
以下の手順でReserved SBの再設定を行ってください。
Reserved SBの再設定はOS運用中でも設定可能です。
 - 1) [Reserved SB Configuration] 画面を出します。
 - 2) 事前作業の解除手順2)で記録したReserved SB の設定状態に合わせ、Reserved SB の対象とするパーティションのチェックボックスをオンにします。
 - 3) [Apply]ボタンをクリックします。

参照マニュアル：

<https://www.fujitsu.com/jp/products/computing/servers/primequest/products/3000/catalog/>

ハードウェアマニュアル 運用管理ツールリファレンス(MMB) (CA92344-1657)

2.4.7 [Reserved SB Configuration]画面

5. ダウングレード手順(1/2)

■ 以下の手順で実施してください。

a) 2.事前準備を実施します。

オンラインファームウェアアップデートは使用できないため、

2.事前準備(2/11)~(3/11)のReserved SB設定の解除は不要です。

b) ダウングレードしたい 統合ファームウェアファイルで

3.アップデート手順の(1/10)~(10/10)を実施します。

(10/10)の完了を確認後、c)の作業を実施します。

c) ダウングレードしたい統合ファームウェアファイルで

再度、3.アップデート手順の(1/10)~(10/10)を実施します。

(10/10)の完了を確認後、d)の作業を実施します。

d) 装置のAC電源をオフ(*)します。PSUのLED消灯を待って、AC電源をオン(*)します。

AC電源オンにしてから、MMBのReady LED点灯を待って、Web-UIにログオンします。

e) 3.アップデート手順の(10/10)に記載の3-14作業を実施します。

“Firmware Information” ウィンドウで、MMB, iRMC, BIOSのファームウェア版数がダウングレードしたい版数となっていることを確認後、f)の作業を実施します。

f) 4.事後作業を実施します。

2.事前準備(2/11)~(3/11)の作業を実施していないので、

Reserved SBの再設定は不要です。

*) AC電源のオフ・オンの手順は次ページを参照してください。

5. ダウングレード手順(2/2)

- AC電源のオフ・オンは、以下の手順で実施してください。

「AC電源のオフ」

- a) MMB_Disk_Unit搭載PSU_Mの電源ケーブルをすべて取り外します。
- b) Base_Unit搭載PSUの電源ケーブルをすべて取り外します。
- c) PSUのLED消灯を待ちます。

「AC電源のオン」

- a) Base_Unit搭載PSUの電源ケーブルをすべて取り付けます。
- b) MMB_Disk_Unit搭載PSU_Mの電源ケーブルをすべて取り付けます。
- c) MMBのReady LED点灯を待ちます。

[注意事項]

AC電源のオフ・オンを実施した場合、PSU関連のイベントログが記録されます。このイベントログに対する対処は不要です。電源ケーブルを取り外したことにより、メッセージが記録されるためです。

- 更新の途中で失敗した場合は、ダウングレード手順を最初からやりなおしてください。
- 更新の途中で失敗した後で、ダウングレードを中止して元の版数に戻す場合は、通常のファームウェアアップデート手順を1回だけ実施してください。

6. MMBのReset方法(1/2)

■ 注意事項

MMB#0がActive MMBの場合の手順を示します。

Active MMBが異なる場合は、MMB#0⇔MMB#1を読み替えて実行してください。

上記の手順を実施中に、ごく稀にMMB がダウンする可能性があります。

その場合は、以下の手順により異常を解消してください。

【MMB 2 重の場合】

MMBがFirmware errorとなった場合は、以下の手順により異常を解消してください。

- ・再度、MMBのResetを実施（「6.MMB のReset 方法」の3)からの実施）

【MMB 1 重の場合】

MMBのAlarmのLEDが点灯し、MMB Web-UIに再接続できなくなります。

以下の手順により異常を解消してください。

- ・稼働パーティションのシャットダウンを実施後、AC電源のオフ・オン(作業手順は、「5.ダウングレード手順(2/2) 」を参照)を実施

参照マニュアル：

<https://www.fujitsu.com/jp/products/computing/servers/primequest/products/3000/catalog/>

ハードウェアマニュアル 運用管理ツールリファレンス(MMB) (CA92344-1657)

2.3.18 [MMB]メニュー

6. MMBのReset方法(2/2)

【MMB 2重の場合】

- 1) MMB Web-UIにログインする。
- 2) Active MMB画面(MMB#0)を開き、Standby MMBに切り替えます。
Switch Over to another MMBのチェックボックスを選択し、Apply ボタンをクリックする。
- 3) 2)の操作から15分程度、経過後(※1)、再度MMB Web-UIにログインする。
MMB#0画面(Standby MMB)を開き、Resetします。
Reset the MMBのチェックボックスを選択し、Apply ボタンをクリックする。

※1) Switch Over to another MMB実施後、Reset MMBを実施する場合は、15分程度空けてから実施いただく必要があります

- 4) リセット処理が完了したことを確認します。
Web-UIの MMB > MMB#0 を表示して、項目(※2)が正しく表示されることを確認します。
- ※2) ・Part Number
・Serial Number
・Firmware Version
・Enable

【MMB 1重の場合】

- 1) MMB画面を開き、Resetします。
Reset the MMBのチェックボックスを選択し、Apply ボタンをクリックしてください。
- 2) リセット処理が完了したことを確認します。
Web-UIの MMB > MMB#0 を表示して、項目(※2)が正しく表示されることを確認します。

Thank you

